

CONTENTS

- ・ 村口きよ女性クリニック訪問
- ・ SRHセミナーに参加して
- ・ 青春讃歌
「東北のうたの本」を歌う

Muraguchi Kiyokuri Women's Clinic

村口きよ女性クリニック訪問

「セクシュアリティと人権を考える会」 宮城学院大学 浅野富美枝 教授



2014年6月25日、「セクシュアリティと人権を考える会」は今年も、学生20名、その他1名の参加のもと、村口きよ女性クリニックを見学訪問しました。

「セクシュアリティと人権を考える会」は、2007年に設立された市民と大学生、大学卒業生、大学教職員からなる研究学習団体です。私の所属する大学では、デートDVの被害や性に関する知識不足、自己主張ができないことなどから望まない妊娠に直面し、退学にしたり、中絶を余儀なくされ心身に深い傷を負う女子学生が少なからずいます。女性がもてる能力を発揮し、誇りをもって人生を送るためには、経済的、精神的、生活的自立とあわせて性的自立が必要です。そこで、キャンパスのなかでセクシュアリティと人権について学びあい語り合う場をもっていたのですが、キャンパス内での活動には限界があることに気づき、広く地域のなかで、市民や男子学生も交えて活動することにしました。こうして在仙大学および仙台市民と連携しつつ、人間の尊厳にふさわしいセクシュアリティ観の確立、性的領域における人権の確立をめざした研究・学習・啓発活動を展開することを目的に、「セクシュアリティと人権を考える会」が発足しました。

会では、「在仙大学生のピル使用の現状とピル観」、「共働き家庭と片働き家庭の母娘関係」、「性同一性しょうがいと人権」などをテーマに研究をしてきましたが、2011年以降は「震災と性」を中心にした活動を展開しています。

村口きよ女性クリニックの見学会を初めて実施したのは2010年で、それからほぼ毎年実施しています。学生のほとんどは産婦人科に行ったことがなく、妊娠したら行くところとっていて、未婚の女性が行くのは恥ずかしいところ、自分には関係のないところとっています。しかし、百聞は一見にしかず、女性クリニックを見学すると女性クリニック観は180度変わります。以下、今回見学した学生の感想をいくつか紹介します。

☆ 女性クリニックは私が初めて行った婦人科の病院でした。妊婦さんが行くところというイメージが強く、行きにくいところでしたが、院内はピンク色が多く、先生もスタッフも女性で安心感がありました。男の人にはわからない苦しみや痛みがわかってもらえると思いました。最後まで同じ看護師さんが対応してくれることいいと思いました。



☆ 性感染症の感染ルートがわからないケースが多いということに驚いた。今は複数のパートナーがいるのが普通なので、パートナーが変わったら検査をするという教育をすべきだと思った。

☆ 若い人は、十分な性知識のないままにリスクの高い性行為をする。早い段階での性教育が必要だ。この女性クリニックは性教育の場だと思った。

☆ 産婦人科でなくても、病院は行きにくい。病院とはどういうところかという教育も必要だと思った。

☆ お話を聞いて一番驚いたのは、性感染症にかかった患者の心のケアまでしているということでした。その理由を先生は、「患者は性の悩みを他の人に言えない。しかし誰かに聞いてもらいたいと思っている。また、性的な知識は誰も教えてくれないので知識をえたいと思っている」といっていました。また、「相手が話しやすいようにする。相手を尊重する。これが基本」ともおっしゃっていました。性感染症にかかった原因を聞くのは診察の一部ですが、確実に心のケアにつながっていると思います。とても感動しました。

忙しい仕事のなかで学生を受け入れるのは大変なことだと思うが、これからもクリニックの皆さんのご好意に甘えて、見学会を続けたい。どうぞよろしくお願いします。

妊娠・出産には限界がある事をどう伝えるか

看護師 筑紫香織



平成26年6月14日、仙台で開催されたSRH(セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス)セミナーに参加してきました。研修会セミナーには以前から参加していましたが、妊娠・出産・育児となかなか参加できずにいたので、久々のセミナー参加を楽しみにしての受講でした。

今回のテーマは「妊娠・出産には限界がある事をどう伝えるか」でした。現在は平均初婚年齢も30歳を超え、結婚をしてもしばらくの間子供を望まなかったり、子供自体を望まなかったりという女性もあり、それに加えパートナーがいても結婚・妊娠を望まないという女性も増えてきています。しかし妊娠は自分が望んだからといってできるものではありません。妊娠・出産には限界があるのです。

まずは思春期から健康課題をしっかりと伝えていくことが大切です。さらに卵子は常に排出されているモノではなく、原始卵胞(卵子のもと)は年を重ねるごとに減少・老化していきます。なので妊孕性を低下させないために思春期から心がける必要があります。男女ともに35歳ごろから妊孕性は下がりはじめるので妊娠を望むなら35歳までが目安ということです。

男女共の晩婚化・晩産化が進む今日、妊孕性を低下させないために留意する点ですが、女性側の因子として、月経異常/望まない妊娠/性感染症/HPV感染/生活習慣病などの健康問題をないがしろにしないことです。ないがしろにする事によって将来の妊孕性の低下を招きます。また高齢になればなるほどいろいろなリスクが出てきます。

私はこのセミナーを受講して様々な事を学びました。出産適齢期は20代後半であり、35歳を過ぎると妊孕性が落ちてくること。生殖補助医療を用いても年齢に伴い、妊娠・出産に至る確率は減少すること。若年・高齢では合併症やリスクが上がる。若い時からの問題解決(月経異常・子宮内膜症など)が大切であること。妊娠・出産がゴールではなく「子供を育てる」大切さを知ってもらうこと。

このことから子供の時から女性として将来の事をしっかり教え生活をしていくという基本的なことを大事にし、相手を大事にし、なによりも自分を大事にしていくことが子供を産み育てていくことに必要な事だと学びました。

このセミナーで学んだ事を今後の看護や患者さんとの関わりに生かしていけたらと思いました。

青春讃歌「東北うたの本」を歌う

仙台市立病院名誉院長 東岩井久 先生

このところ、休みを返上して毎週日曜日の特訓が続いている。9月18日に仙台市復興記念館で開かれるHKジュニアコーラスOG会の発表会のためである。この日は発表会の後半に、「東北うたの本」から28曲が取り上げられる事になりメンバー全員が各々ソロを務める事となったからだ。

「東北うたの本」は戦後間もなく、NHKの仙台中央放送局から毎週一回夕方に生放送されたラジオ番組で、当時仙台市内の各小学校から男1名女2名選ばれた仙台児童合唱団のメンバーが歌った歌が集められている。

以来70年の歳月が経ち、もと児童合唱団員だったメンバーも減り、現在は11名のみとなった。旧かなづかいで書かれた楽譜をみながら発表会では元気に歌おうと思っている。



臨時休診

10月11日(土)は、第16回性科学セミナー・第34回日本性科学学会参加(岡山)のため休診となります。

編集後記

広島での集中豪雨による土砂崩れでは、多くの方の命が奪われました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

今年は8月の下旬から涼しい日が続いておりましたが、このまま本格的な秋に突入するのでしょうか。夏の終わりはやっぱりちょっと寂しいです。。。



発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp